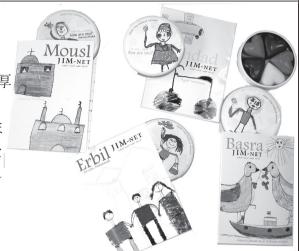
# JIM-NET便り



## チョコ募金の季節到来

チョコ募金「限りなき義理の愛大作戦」も今回で5回目を迎えることになりました。皆さまのご厚意に支えられ、回を重ねるごとに規模を拡大し、昨年は7万個のチョコが2月を待たずになくなりました。今年は10万個のチョコをご用意し、もっともっと多くの方に参加していただこうと準備をしているところです。



#### ■ 佐藤真紀事務局長へインタビュー

Q: 今年の募金キャンペーンの目玉はなんですか?

チョコ缶とカード

A: 今年のチョコは、去年までのアーモンドチョコレートに代わって、缶に入ったハート型のチョコになりました。このチョコも六花亭さんのおいしいチョコです。缶にはサブリーンという女の子の絵が印刷されています。サブリーンは、11歳のときに目のがんになり、2005年右目を摘出しました。ちょうどJIM-NETが院内学級を始めたころでした。その子どもたちの絵の中に、とてもおもしろいのがありました。それがサブリーンの絵でした。僕は、その絵が気に入ってチョコレートのパッケージにしたいと思って始めたのがチョコ募金でした。それが信じられないほどのブームになって、募金規模も大きくなっていきました。まさにサブリーンのおかげなのですが、この度、彼女のがんが再発してしまい、命が危ぶまれるほどだということで、急遽、応援する意味で、残るものをと思い缶入りチョコにしたのです。

Q:毎年ついてくるカードの絵、今年はどんなものですか?

A: JIM-NETが支援している病院がある都市の紹介をしようと考えました。日本で流れる



サブリーン (2009年5月)

イラクのニュースは、痛ましい事件ばかりで、いいイメージがありません。子ども達は「イラクはこんなにすてきな国だよと」絵を通じて伝えてくれています。

Q:前回は7万個が2月に入る前になくなってしまったそうですが、今回は?

A: 今回は10万個に増やしました。それにはいくつか理由があります。イラク戦争から6年になり、メディアから取り上げられる機会も少なくなったイラクですが、国内は、いまだに戦争の傷跡が癒えていません。市街地でテロや武力衝突が当たり前のように起こり、人々は安心して生活することができません。例えば、こんなにJIM

-NETに貢献してくれているサブリーンの容態が悪くな

ったと聞いても、私たち日本人は、危険だからということでお見舞いに行くことさえできない。これが、今のイラクなのです。病院も慢性的な医薬品不足で、この度、各病院への支援を $20\%\sim30\%$ 増やさなければなりませんでした。これがチョコを10万個に増やした第一の理由です。

私たちは、このチョコ募金は単に支援金を集めるためのものだけではなく、日本人がイラク戦争を忘れないための、大切な情報源の役割を担っていると考えています。チョコのカードにこめられたメッセージをより多くの人に届けるというのが、二つ目の理由です。

「がんばらない」で有名なJIM-NET代表の鎌田實先生が、イラクの子どもたちのために「がんばろう!」と言っています。

Q: 今回は、発送作業に障がい者のための授産施設のご協力をいただくそうですが?

A:10万個という数は、事務局とボランティアの皆さんだけでは対応できない数です。どうしようかと思っていたら、障がい者授産施設が、袋詰めや、発送作業を受注してくれるというのです。今回は、川崎市にある知的障害者通所授産施設「KFJ多摩はなみずき」にお願いし、一緒にイラク支援を手伝ってもらうことにしました。

前政権が行なった様々な改革は、日本の社会を弱者が生活しにくいものにしてしまいました。世界不況の中どんどん景気が悪くなり、ホームレスは増え、派遣切りに象徴されるように雇用情勢も悪化しています。障害者自立支援法以降、障がい者を取り巻く状況も悪化しました。これから、障害者自立支援法がどういう形になるかわかりませんが、授産施設が元気になればいいと思います。JIM-NETとしても日本社会とどう向き合うのかというのも大きなテーマです。

#### サブリーンのお別れ会

上記記事中のサブリーンが、10月16日永眠しました。 つきましては、サブリーンを偲ぶ会を下記のとおり執り行いたいと存じます。 ぜひおいでくださいますようご案内申し上げます。

- サブリーンの絵をモチーフにしたポスターの展示
- 鎌田實JIM-NET代表/佐藤真紀事務局長のお話し
- 会場でチョコ募金を行ないます。
- 日時:12月2日(水)午後7時~9時(この間、入退場は自由です。)
- 会場:カタログハウス・セミナーホール

(東京都渋谷区代々木2-12-2カタログハウス本社ビル地下2階)

■ お問い合わせ: JIM-NET事務局 03-6228-0746

教教教教教教教教教教教 低低低低低低低低低低低

## 最近のJIM-NETの支援から

JIM-NETは、現在4病院へ薬の支援を行っています。

4月から7月までの支援金額の合計は12,382,250円になりました。昨年度の20%増の予算

を立てていましたが、円高の影響で実質的には昨年並みです。

バスラの支援に関しては、オーストリアのNGO「SAAR」が半年ごとにまとめて薬をバスラに送っており、足りない部分をJIM-NET参加団体である「子どもの平和と生存のための童話館基金」が支援しています。しかし、オーストリアから10月に届くはずだった薬が、12月の初めごろに延期になり薬のストックが底をついてきたとのことで、JIM-NETの送金を前倒しして、ローカルスタッフのイブラヒムが現地で薬を買い付けることにしました。また、セイブイラクチルドレン札幌が薬(現物)の支援をしてくださいましたので、佐藤がオーストリアに持っていき、SAARのエバ医師に手渡し、まとめてバスラに送ってもらうことになりました。

ウィーンの自治体に勤務するエバ医師は、2001年、がんの学術会議でイラクに初めて行った際、バスラの医療事情があまりにも悪いことに驚き、それ以来支援を続けています。 資金調達から心臓病の子どもの手術の手配まで、ほとんど一人で行い、年間20人の手術を 実施したそうです。ヨーロッパでは、自治体が国際協力の予算を持っており、途上国から 患者を受け入れています。しかし、がんの場合、お金をかけても治らないことも多く、成 果が見えにくいので、受け入れは難しいとのことでした。

11月11日には、ウィーンから医師団をシリアに派遣し、10名のイラクの子どもの心臓手術を行う予定だそうです。まさに、スーパー・ドクターです。

ヨルダンでのKHCF(フセイン王がん基金)を通したイラク人患者の支援も進んでいます。年間予算は200万円で、今年度は年始にKHCFへ送金し、必要な患者に少しずつ出してもらうという方法をとりました。結果的には、7名の患者に使われましたが、この期間は対象となる子どもはなく、大人の患者に使われました。しかし、その直後に、現在来日中のドクター・リカーからモスルの患者がヨルダンで途方にくれているので何とかしてほしいとの要請があり、JIM-NET参加団体「イラク医療支援・通販生活」と協議した結果、特別追加で100万円を拠出することになりました。JIM-NETのKHCFを通したイラク患者支援は、累計で600万円を超えました。KHCF事務局長を務めるディナ・ヨルダン王女からお礼状が届き、キングフセインがんセンターの入り口には、後援者としてJIM-NETの名前が刻まれました。

## アンマンで義足を作るイラク人たち

10月6日夜、アンマン(ヨルダンの首都)にアヤ(11歳) と父親が到着しました。これまでも年2回ほどのペース で義足の定期的な修理のためにアンマンを訪れていま したが、今回は修理ではなく新しい義足を作るのが目 的です。アンマンへ来る前から義足の不調を何度も訴 えていたアヤの父親でしたが、実際に見てみると彼女 の義足はもうボロボロです。体の成長と共に、義足が 体重を支えきれなくなり、大腿部の支柱は歪み、関節 部を止めるネジもところどころ外れていました。その



バグダードからアンマンにやってきたアヤ

ため体に合った義足を新調しなければならないのです。

アンマンのアシュラフィーヤ地区、白と黒のコントラストがとても美しいアブー・ダルウィーシュ・モスクの隣に修理工場があります。ここのハータム先生が長年アヤの義足の修理に携わってきました。彼は古くなった義足を見ながら、

「義足は大きく分けて2種類あるんですよ。大人用と子供用。アヤの体の大きさだとまだ 大人用のものをつけるには早いですね。18歳になって成長が止まったら、大人用のものに



アヤの新しい義足(右)と古い義足

切り替える必要がありますが、その後は新調する必要もなくなります。」と説明してくださいました。

バグダードからアンマンに出てくるのは非常に苦労をともないます。長時間の車移動のみならず、事前にビザを取得しなければならず、それに1~2か月を要する場合もあります。バグダードで修理が行えればよいのですが、それが実は難しいのです。

「バグダードにもいくつか義足の修理を行うところがあります。しかしそこで扱っている義足の部品は種類が非常に乏しく、経験のある技術者もいません。アヤの義足には膝に関節が付いています。しかしバグダードの義足は関節すらないものばかりです。

また、義足の調整はとても繊細なものです。ネジの締め方一つで娘は「硬くて歩きにくいよ。」と訴えるくらいですから。そういう調整が行える技術者が残念ながらバグダードに

はいないのです。」とアヤの父は言います。

「イラク国内ではスレイマニヤの病院が義足の修理に長けていると聞きます。しかし、そこではアンマン同様にヨーロッパ製の良質な義足の部品が流通しているかどうかは定かではありません。おそらく十分ではないでしょう。そのことを示すかのように、うちには爆弾テロなどで手足を失ったイラク人が数多く訪れています。先月はイラク人の依頼だけで20本の義足を修理したんです。それに、お気づきですか? 待合室にいる患者さん達。彼らは皆イラク人なんですよ。」とハータム先生。

待合室には3組の家族がおり、義足の相談のために訪れていました。1人の少年と2人の大人。大人は2人とも車いすに座っており、2人とも膝から下の部分がありません。少年はふつうに椅子に座っているようですが、一目で爆発に巻き込まれたことが分かりました。顔に重度のやけどの跡があったからです。

この少年はサルマーン君(9歳)。2006年の10月、父親と外出中に路傍爆弾が爆発し左足首を失い、さらにその時、顔に重度の火傷を負ったそうです。口から鼻にかけてのほとんどが失われたために、背中の筋肉を顔に移植しました。現在は定期的にアンマンを訪れ、義足の修理と顔の形成手術を行っているそうです。

車いすのアリーさん(24歳)も、同様に突然の爆弾テロに巻き込まれ膝から下を失いました。2008年9月夕方、彼が勤めていたコンピューターショップを閉めて家に帰ろうとした直後に爆発が起こりました。病院に運ばれ緊急手術を行いましたが、足を切断せざるを得



アリーさん

ませんでした。この時は、膝の先端部に当てるためのシリコン材 の調整のためにここを訪れていました。

彼らは現在「国境なき医師団フランス」の支援によりアンマン で治療を受けているそうです。彼らによると、国境なき医師団の 支援により爆弾テロで負傷したイラク人200人ほどが治療のために アンマンに滞在しているそうです。

イラクでは治安の問題に加え、修理部品の欠如や技術者の不足 からヨルダンでの修理を余儀なくされている義肢使用者が多数い ます。こういった方たちが国内で修理を受けられるように義足の 部品の充実や、技術者の育成も目下の課題として認識しなければ いけないことの一つでしょう。

加藤丈典 (JCF/日本チェルノブイリ連帯基金)

તોઈ તીઈ તોઈ તીઈ તોઈ તીઈ તોઈ તીઈ તીઈ તીઈ તીઈ તીઈ તીઈ તીઈ તીઈ

#### クルドから思うイラク

「5年ぶりにイラクに戻っての感想はどうか?」と同行のJVC(日本国際ボランティアセ ンター)谷山代表に声をかけられたものの、全く実感が無いというのが、クルド地区のア ルビルに足を踏み入れての感想だった。

最後にバグダードを発ったのが2004年4月16日。それから5年後の2009年8月9日に隣国 のヨルダンの首都アンマンからのフライトでクルド地区のアルビルに足を踏み入れた。

実感がないのもそのはずで、イラク北部のクルド地区はバグダードとはまるで雰囲気が 違う。例えば、走っているタクシーは確かにイラク特有の白とオレンジ系の赤のストライ プのイラクタクシーなのだが、車は新車でぴかぴかである。今のバグダードは5年前と比 べればそれでもましな車が走っているものと思うが、新車の走るイラクというのはこれま で持っていたイメージとはまるで違う。

空港からアルビル市内に向かう道の周りは新しいビルが建てられて開発に沸いている。 それも、バグダードなどより相対的に治安が安定しているとしてクルド地区への投資が促 進されている表れなのだが、そのような急激な開発は、金を持っている人と持たない人の 間に格差を生んでいると聞く。迎えに来てくれたイラク人女性は、ローカルNGOでボラ ンティアをしているが、そのNGOでも目下の問題は、困窮する人びと、特に女性に十分 な医療を受ける機会を提供することだという。復興と開発の陰で人道の問題が置き去りに されることを懸念する。

今回、ここアルビルに足を踏み入れたのは、JVCとしてクルド地区に対する開発支援を 検討するためではなかった。活動の対象地として検討しているのはアルビルから車で1時 間以内の距離にあるキルクーク市だった。豊富な埋蔵量の油田があり、この利権を巡り今 後の紛争のタネになりかねないクルド地区とアラブ地区の境目に当たるキルクークにおい て、政治権力に左右されずに地道に草の根の住民同士の対話を進めようとしているローカ ルNGOがあり、そのNGOの代表者との打合せが目的だった。

アルビルに飛んで来る途中でも気になったのは、眼下に見える景色のうち、飛行ルート の中でも多くを占めるイラク西部のアンバール県の様子だった。JVCはアンバール県のフ



国内避難民への食糧支援

アッルージャで8月中旬に避難民450家族を対象に食料配布を行った。

支援対象になった人びとの多くは2006年のいわゆる「宗派対立」の時期に、宗派色を帯びた民兵組織の者たちによって迫害され、生命の危険を感じてアンバール県に逃げて来た人びとであった。国境を越えて国外に逃げた人びとは「難民」と呼ばれるが、これらの人びとは「国内避難民」と呼ばれる。ファッルージャの国内避難民はバグダードから逃げて来た人びとが多い。2008年以降、バグダードの治安も改善されたとする報道も多いが、こ

れらの避難民の人びとはまだ帰ることができない。もともと住んでいた家に別の人が住んでいたり、戻っても仕事がないなどの問題があるからだ。隣近所が誰も知らない人ばかりだと安心して生活ができない。一時の治安改善があったとしても、壊されてしまった社会的関係を立て直すことは容易なことではないし、親や兄弟、親戚などを殺されるか傷つけられてしまった人びとにとって、心の傷を癒すだけでも長い時間を必要とする。

復興景気に沸く北部のクルド地区を訪れても違和感があったのは、イラクの人びとの多くが、まだ人道的な危機の中に生きていかなくてはならない現実があることを支援を通じて見聞きしていたからだった。

クルド地区においても人道的な支援は必要だ。しかし、クルド地区だけでもいけない。 クルド地区を訪問することで、それ以外の地域でこれまで進めて来た支援を引き続き着実 に進めることの必要性を感じたのは皮肉なことではあるが…。

原文次郎(JVC イラク事業担当 ヨルダン駐在員)

#### 二つのイベントと劣化ウラン弾

9月から10月にかけて、JIM-NETはいくつかのイベントに出展しました。そのうち9月5、6日の横浜国際フェスタ2009、そしてJIM-NET参加団体のJCF(日本チェルノブイリ連帯基金)と共同出展した10月3日のNO NUKES FESTA2009では、JIM-NETの活動を紹介するだけでなく、イラクの子どもたちのがん、白血病の原因と推測される劣化ウラン弾について日本の市民がどのような認識を持っているのか、シール投票で尋ねてみました。

横浜国際フェスタ2009は、国際協力・国際交流を主要なテーマにしたイベントです。来場者も、休日を楽しむためにみなとみらいにやって来た家族連れやカップルがほとんどで、「フェスタ」という名前のとおり、国の珍しい料理



横浜国際フェスタのJIM-NETブース

も楽しめる、お祭のような楽しい催しです。そのせいでしょうか、劣化ウラン弾のことは 初めて知ったという回答が半分以上でした。

それに対して、NO NUKES FESTA 2009は核の問題を考えるイベントで、来場者も原子力発電をはじめとした核に関する問題に関心のある方が多く、劣化ウラン弾を知っているよりもさらに踏み込んだ、劣化ウラン弾がイラクで大量に使用されたことを知っているという回答がほとんどでした。

この二つのイベントでのシール投票は、統計的に十分なものであると言えないとは思いますが、この対照的な結果から、劣化ウラン弾に関して情報格差が著しいということが導きだせるのではないかと思います。このことは、イラクの子どもたちの現状への理解も、日本では大きな差があるということでもあるでしょう。

JIM-NETの活動の目的の一つにイラクの現状を知ってもらうということがあります。 二つのシール投票の結果から、イラクの子どもたちの健康被害が、いわゆる「核の平和利 用」ということに連なる問題であるということを、より強く訴えていかなければならない とあらためて思わされました。

#### 新刊案内

#### 「イラクの赤い花」

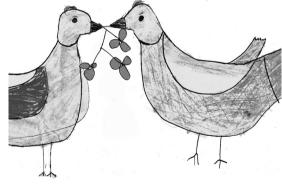
絵:ハウラ・ジャマル 文:さとうまき

○ 新日本出版より一月発売予定

子どもたちに「絵を描かせる」ことを考えています。「描かせる」と言ってしまうと、たぶん抵抗のある人もいるでしょう。でも、そんなの僕は気にしません。だって、彼、彼女たちは、いつも自由に絵を描いているわけですから。

作品をつくるというよりはコミュニケーション。 これまでも、ドゥアやサブリーンとそういう仕事を やってきました。ドゥアはまだ小さかったけれど、





サブリーンはよく描いてくれた。「マキはいつも絵を描かせる!」と言っていた。そして ハウラは、描かせなくてもたくさんたくさん描いています。上手、下手はさておき、描け るというのはすごい才能なんです。描かされるのも才能?

ハウラも、サブリーンも12歳を超えていたので、自分の絵がどういうふうに使われて、 募金が集まることがわかっていたと思う。それで、昨年のチョコ募金で大活躍のハウラの 絵は、今年もチョコのパッケージに使わせていただきました。そんな、彼女の絵を絵本に しました。

(さとうまき)

#### 「ハニーンちゃんのお人形」

文:加藤ユカリ 絵:榧野ヒカリ

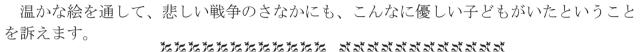
協力:スマイルこどもクリニックスタッフ

JIM-NETスタッフ

○ めるくまーる出版より12月上旬発売予定

ハニーンちゃんは、家族思いのとても優しい女の子。お父さんの仕事で一家がヨルダンで暮らしている間にイラク戦争が起こり、故郷へ帰れなくなってしまいます。ある日、お母さんがハニーンちゃんのお腹が膨れていることに気づき…

彼女の命を救いたいと立ち上がったスマイルこど もクリニックのユカリ医師が、ハニーンちゃんとの 思い出をつづりました。

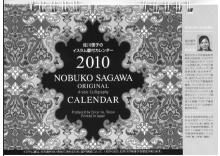


#### ~皆様のメッセージから~

- サブリーンの具合がよくないとの話、心が痛みます。イラク全土で、何人の子どもが同じような思いをしていることか…。 わずかですが、活動の足しにして下さい。
- 革の切れ端をたくさんの方に買っていただいたその売上金です。
- 母親何人かでフリーマーケットをしました。売 上金を募金させていただきます。
- 今年も「平和を願い記憶しよう8月15日」の集会で「イラクの子どもたちのために」と募金をしました。子どもたちのためにお使いください。

メッセージ、どうもありがとうございました。

#### イスラム暦付きカレンダー 販売中



アラビア語 と中東メディ アのエキスパ ート、エリコ 通信社のご厚 意により、ア ラビア書道の

第一人者佐川信子さんのイスラム暦付きカレンダー(卓上型 カレンダー部分約18cm×12.5cm JIM-NETのロゴシールつき)を販売



しています。

アラビア文字にもたいへん美しい書の世界があります。佐川信子さんは、我が国には数少ない気鋭のアラビア文字書家で、このカレンダーに使用されているアラビア語カリグラフィーはすべて佐川さんのオリジナルです。

中東・イスラム社会とのお付き合いでいつも頭を痛めるのは暦の違い。うっかりしていると、先方はお休みでいくら電話しても出てくれない筈、といったことがよくあります。イスラム暦の月の名前と日付が、日本のカレンダーに付記されているので、イスラムの休日はひと目でわかり、大変便利です。

なお、売上金はJIM-NETのために活動に 使われます。ご購入は、事務局(☎ 03-6228 -0746)まで。

#### JIM-NET便り 2009年秋号

発行:日本イラク医療支援ネットワーク

発行日:2009年11月15日

 $\mp 171-0033$ 

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

info-jim@jim-net.net 203-6228-0746